

# ソーラークッカーでごはんを炊いて カレーを食べたよ (講師 SOE)

## 前野町イオン 子ども環境クラブ「チアーズ」の取り組み

今年度のイオン子どもクラブの全国研究テーマは「太陽」6月2日の、お日様となかよし〜鏡で遊ぼう (講師 SOE) に続き、第二段「ソーラークッカーで料理をしよう」に取り組みました。

真夏の太陽が照り付ける、8月1日、午前10時半にソーラークッカーを屋上駐車場に取り付け、はんごうで1合のお米をセット。午後1時にはたけていました！



6階の屋上駐車場に、段ボール製のソーラークッカーを7台設置



イオンの職員で社会貢献担当者の3人の方が全面支援

SOE NEWS

No.156



2019年  
9月

センスオブアース  
市民による自然共生  
パンゲア

平成27年度地球温暖化防止活動  
環境大臣表彰受賞団体

右写真のように  
容器で水を温めて  
水温を計って  
います



### 子どもたちの課題『料理』

○ココア ○みそ汁 ○ホットケーキ ○卵の黄身焼き ◎全員でカレーのレトルトを温め、たけたごはんでカレーを食べる

まず温めている水温調べ、32度から80度ぐらいまで上昇、酷暑の下で測りました。2時間以内の活動です。出来上がったお湯で、即席ココアやお茶を飲みました。残念ながら卵の黄身は固まるまでいかず、ホットケーキも固まるまでは時間不足で、少し残念でしたが、全員で、太陽でたいたごはんに、太陽で温めたレトルトカレーをかけて一口ずつ食べました。

お日さまのごはん！



《感想・疑問・課題》◎太陽は遠いのに、なんで料理ができるの？

(複数回答) ☺ココアがおいしかった ☺太陽で料理ができてすごい(複数回答) ☺みんなでカレーを食べると、とてもおいしく感じた ☺日光には熱がある ☺日光をあつめれば食べものを調理できる ☺鏡の枚数を増やして光の当たり方を調節できるか？  
☺卵焼きができるか確かめたい

ふりかえりで、できたもの食べた感想発表



〈チアーズ担当須藤さんより〉

「先生方の熱心さ、子どもたちの意欲と興味に大変感動いたしました。ごはんが本当にたけたのには驚きでした。身近な食材を使ったことで、太陽に親しみが持てました。」



紙芝居「お日様となかよし」の読み聞かせ



草の茎に上って脱皮したセミの抜け殻



タテハチョウ～ヒョウモンの仲間



タテハチョウ～オオヒカゲの仲間

コガネグモの巣～V型に見える糸は隠れ帯



## 赤塚城址バッタ広場～生きもの観察

高島第五小学校◎3年生17人

引率 川村校長、三浦美樹、菊池各先生◎7月9日

いたばし水と緑の会(坂本、瀬田、山田各氏)  
プログラム実施 SOE

「自然や虫がいて晴れ晴れした!」「いろんな虫が虫を食べたり、動物を食べたりする。」「バッタやカマキリは自分の命を残したいと思っていたら、草や木が大事なのか。」「てきに見つからないように隠れる所と食べ物があるところとかいろいろ考えて親は卵を産むんだな。」

### 見つけた生きもの

モグラの巣・カマキリ・カナヘビ・キリギリス・たくさんのトンボ・クモの巣・黄色のクモ・チョウ・セミの幼虫・バッタ・卵のついた木の葉

### 生きものがすんでいる地域や自分の学校、公園をこれからどうしていったらいいでしょうか。

☑昔のように虫が増えてにぎやかになったらいいな。☑学校や赤塚公園に生きている生きものを飼わずに自然で生かす。☑もっと緑を植えたりごみを捨てないようにすればよい。☑いろいろな人が公園に来てほしい。☑長い草だからぬくんじゃなくて、一、二本ぬく。☑(学校や公園の敷地を)「もっとひろくしてほしい。☑バッタとか踏まないように、そろそろ歩こうと思う。☑守っている人に頼らないで、自分で工夫する。☑生きものを見つけたら、記憶から消えぬようにしようと思う。☑自然をもっと増やす。☑木を植えてみたい。☑自然を守る人になりたい。☑バッタ広場みたいになりたい。☑バッタ広場がずっと残ればいいな。☑もう少し、生きもののは場所は静かに歩く。☑豊かな場所を守ってくれる人がいるんだな。☑ぼくもそんな人になりたい。」



虫好き虫嫌いも全員集中、真剣なたんけん

発表の後、バッタ広場を守る水と緑の会の方に質問する



# ピカッと光る水力発電器を作ろう ◎8月5日



エコスクール第一日目、SOE は、水のエネルギーの学習として、「水の旅ゲーム」と「水力発電器づくり」を行いました。応援に、東京家政大学の学生たちも参加し、子どもたち 19 人も楽しく水エネルギーを学びました。

## 水の旅のゲームからわかったこと考えたこと

- ☑雲や土はどのように水を含めているのか。
- ☑自分が水になって体験するのがおもしろかった。

☑水がいろいろな形になって、旅をするんだとわかった。☑水は 100 粒のうち、海に 97.5 粒あることがわかった。☑水はいろんなところにいる事。☑雲に水があってびっくりした。☑植物の水はどこだ？

## 紙芝居「水の子チャプの決意」や「水力発電器を作ろう」から、わかったこと考えたこと

☑今日作ったものを大きくして、川とかに取り付けたりして、たくさん電気を作ってみたい。☑水で電気を起こすことができるなんて。他のものでもできるか調べてみたい。☑なんでペットボトルがまわると、電気がつくのかびっくりした。☑水道の水でプロペラを回したら、LED電気が付いた。☑水が電気を作っているなんて。☑光っていて楽しかった。☑全てが楽しかった。☑水はすごいんだ。☑水力発電器のほかにも、風力やソーラーなど作りたい。☑水の力で電気がつくのがふしぎ。☑紙芝居で水不足になると大変になるんだとわかった。☑水車が回る→回転がモーターに伝わる→モーターで発電される→その電気で豆電球が付くという仕組みになっているんだろうと考えた。



SOE 設立 15 周年記念講演会◎7 月 20 日

# 『身近な鳥・都市鳥の話』東京 VS パリ

講師◎都市鳥 研究者 川内 博 さん



エコポリスセンターのこの講演会の会場では、美しい小鳥たちの姿が大きく映し出されていました。そして、心が洗われるような小鳥たちの録音したそれはうつくしいさえずりが流れました。

パリの中心街に近く、あまり広くはないモンソー公園での観察の時のお話です。クロウタドリ、ヨーロッパコマドリ、ミソサザエ、ウタツグミ……行ったことのないモンソー公園に思いをはせながら聞き入りました。

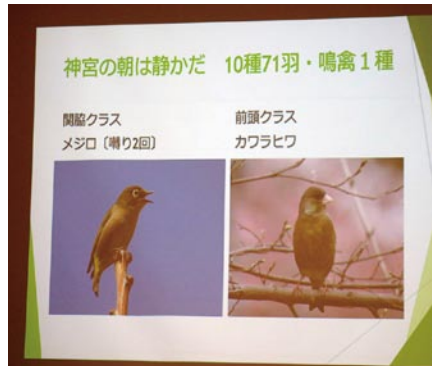
川内先生は大学生のころからずっと野鳥の会で活躍され、日大豊山中・高校で理科を教えてこられた方です。都市鳥研究会研究部長をされており、『大都会を生きる野鳥たち』『四季の野鳥』などの本も出版されています。



30 年ほど前、軽井沢の夜明けはたくさんの小鳥たちの鳴き声の大合唱がひびいていました。それが、年を経るごとに激減している様子をテープで聞きました。一方、近年の緑化運動などで都市はむしろカワセミやコゲラ、エナガ、オオタカなど珍しい鳥も見られるようになりました。自然豊かな山間地の小鳥たちが減っているという大きな問題も提起されました。ちょっと心して立ち止まり、耳をすませば、目を向ければ、身近にいる都市の鳥たちが、私たちの住む環境の変化を暗示してくれること、教えてくれることを知りました。もっともっと身近な鳥たちに心を寄せてみたいと思いました。



軽井沢の別荘で定点録音した鳥の鳴き声の変化の記録



講演の後、講師の川内さんを囲んで感想を述べ合う (右端 川内博氏)



発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町 4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp